

KOTOKO

たなかけん



水上涼子
40才

独身



わたしは
一人で

生きて
いる



去年唯一の
肉親で
ある

叔母を
亡くし



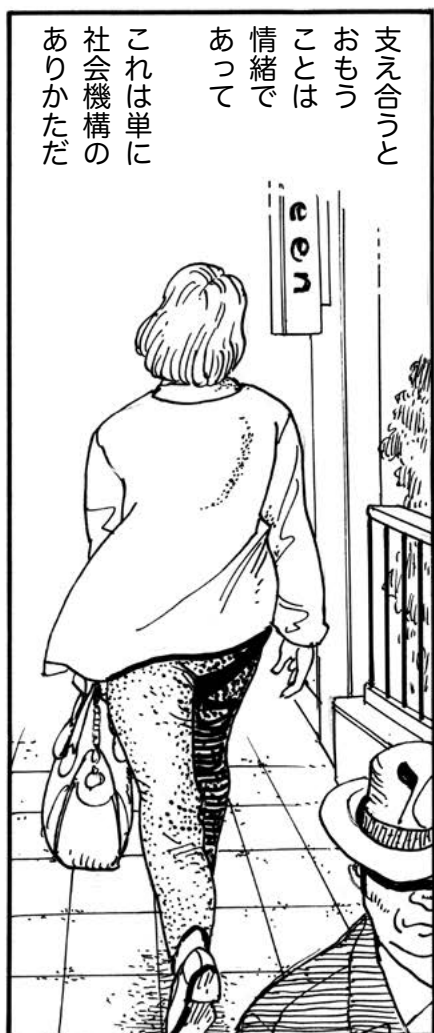
その思いは
さらに強く
なった





よく
人は一人では
生きて
いけない
と……

支え合ってこそ
生きていけると

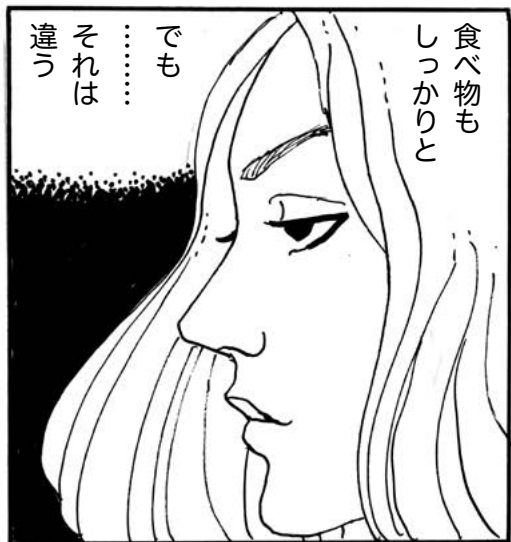


支え合うと
おもう
ことは
情緒で
あつて

これは単に
社会機構の
ありかただ

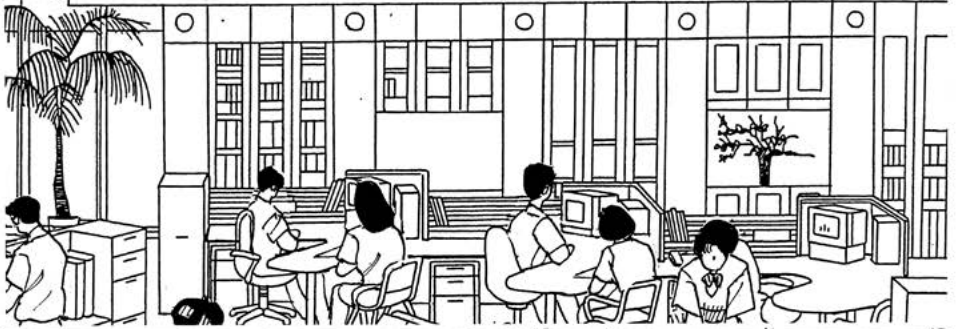
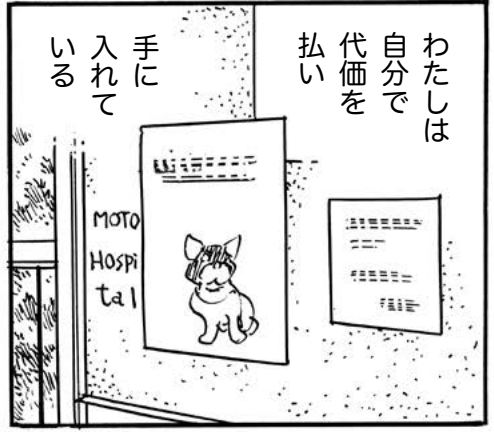
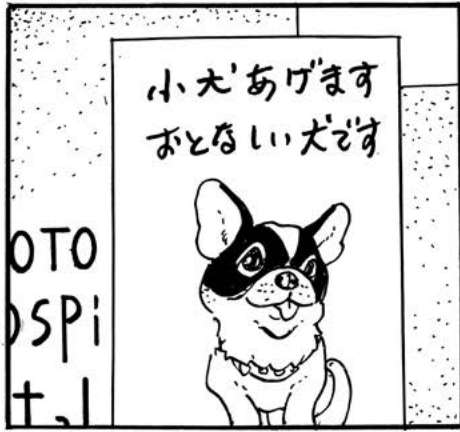


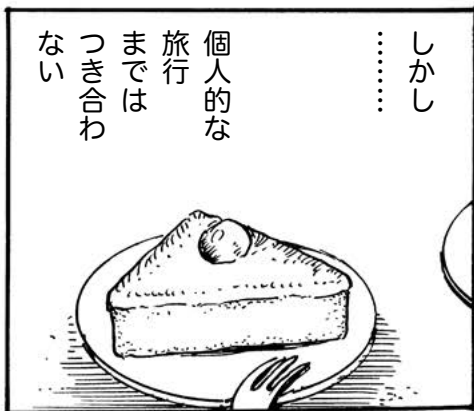
この服も
バッグも
それを
造る
人がいて
はじめて
身につけ
られるし

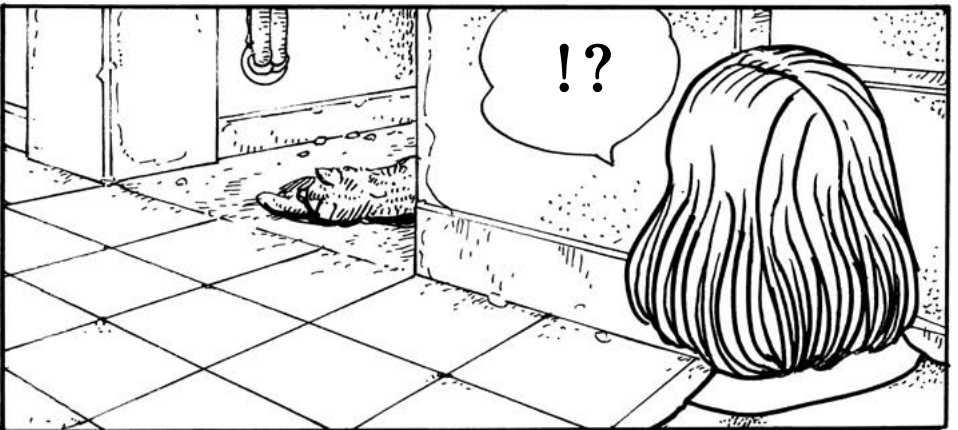
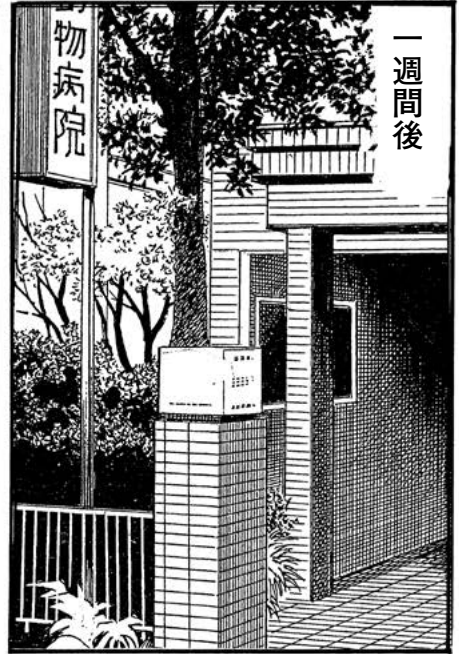


食べ物も
しっかりと

でも
……
それは
違う









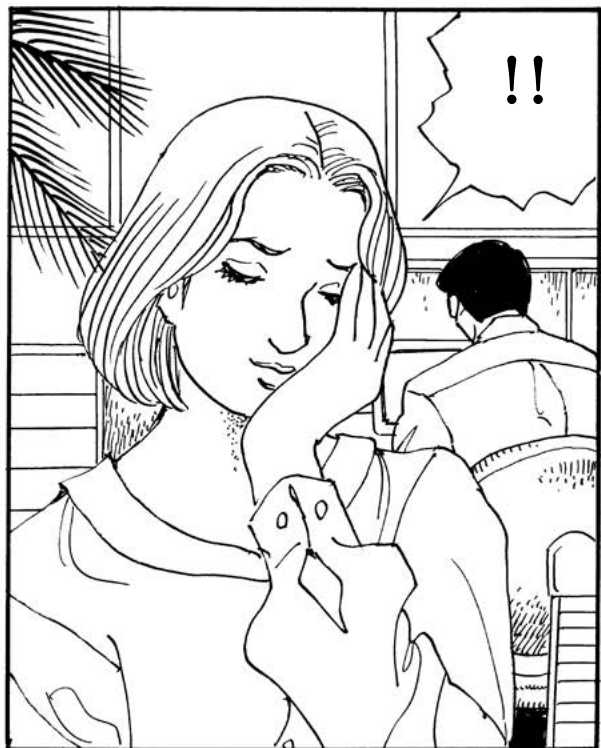
早朝から
いやなものを
見てしまったわ

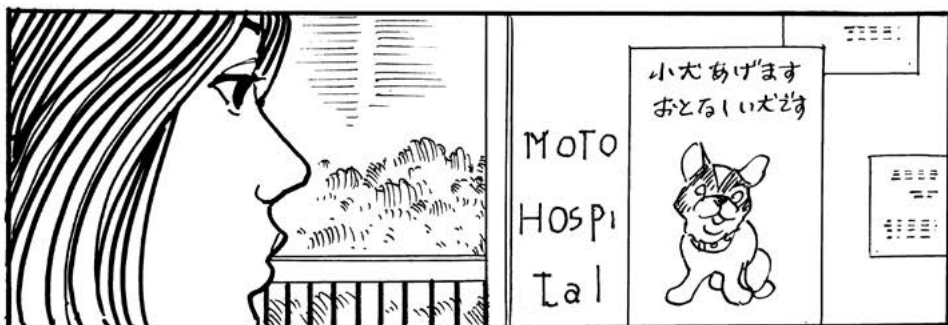
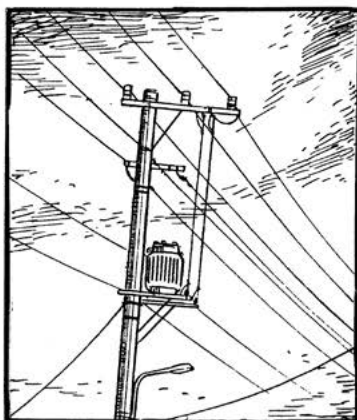
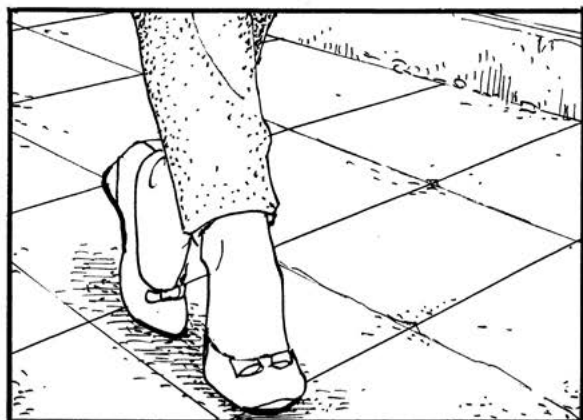


誰か保健所へ
連絡してよ



わたしは
通勤中のの

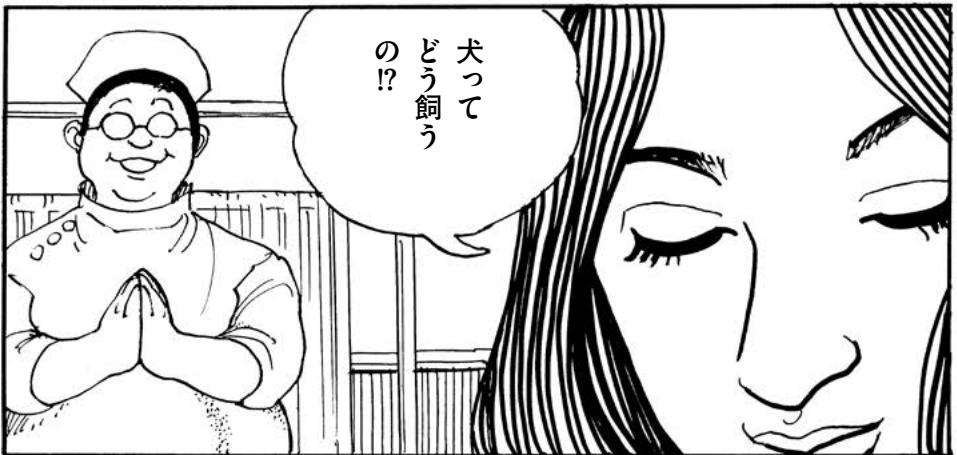




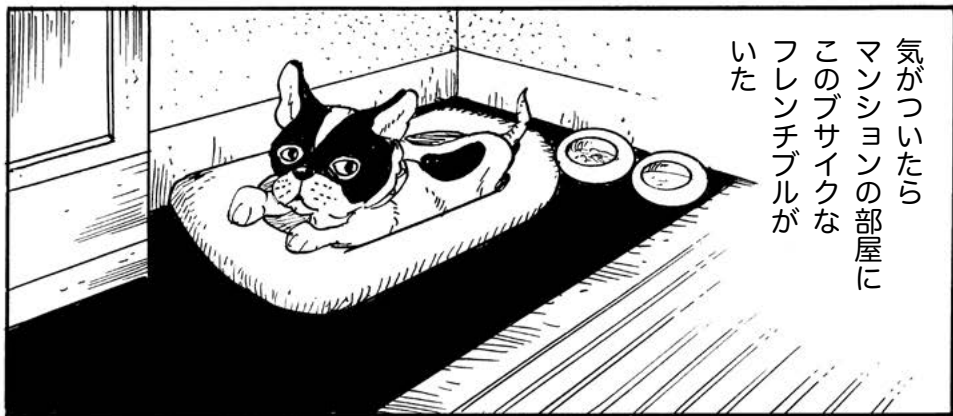


小犬の体温を
感じたとき

とつぜん
寂寥^{せきりょう}な
風景の中に
いる孤独な
自分を
発見していた



気がついたら
マンションの部屋に
このブサイクな
フレンチブルが
いた



おい
で……

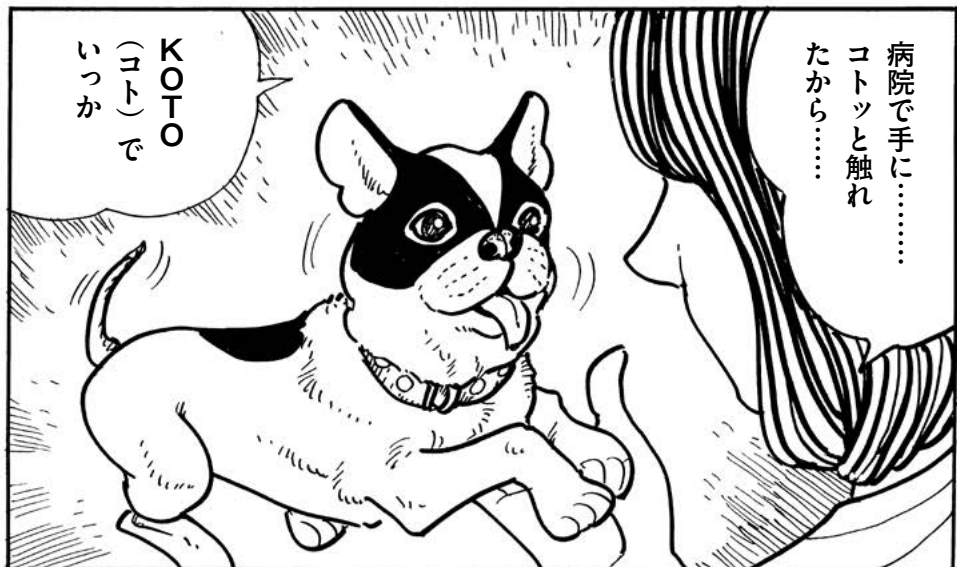


そっか
名前まだ
だったな



病院で手に……
コトツと触れ
たから……

KOTO
(コト)で
いっか



それから
暮しに

少しずつ
変化が
……



帰宅が
楽しくなった
のだ



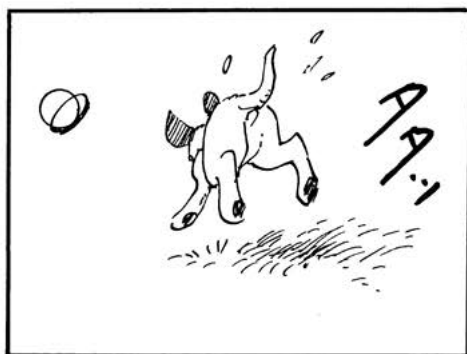
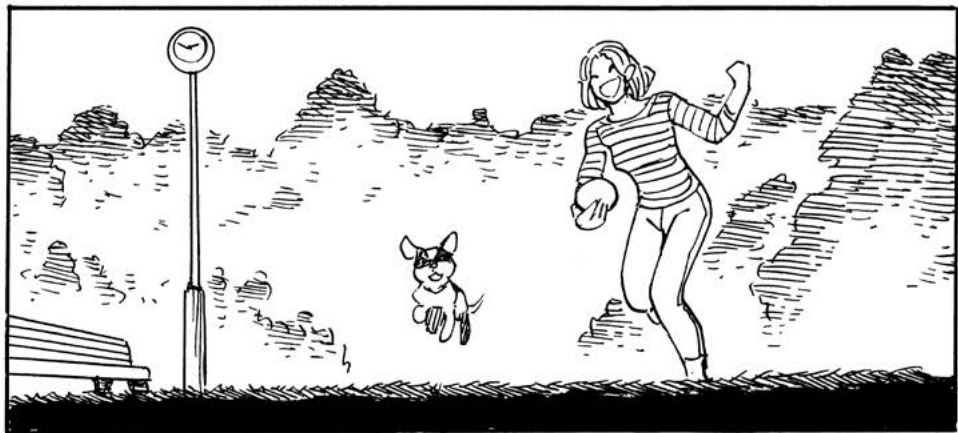
たとえ
ブサイクな
小犬でも

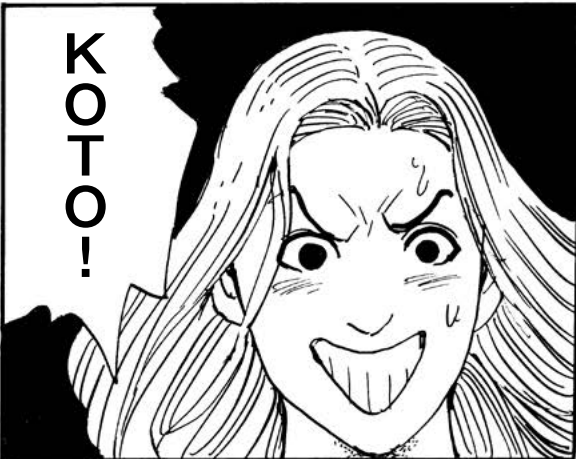
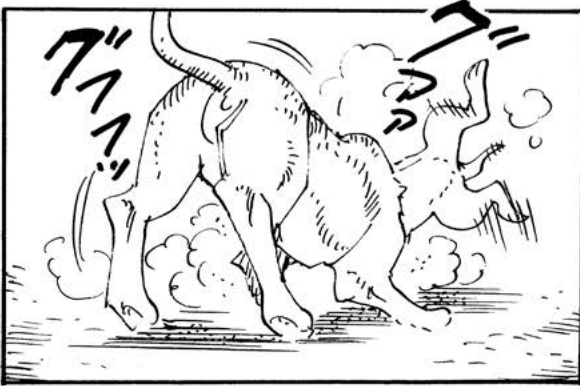
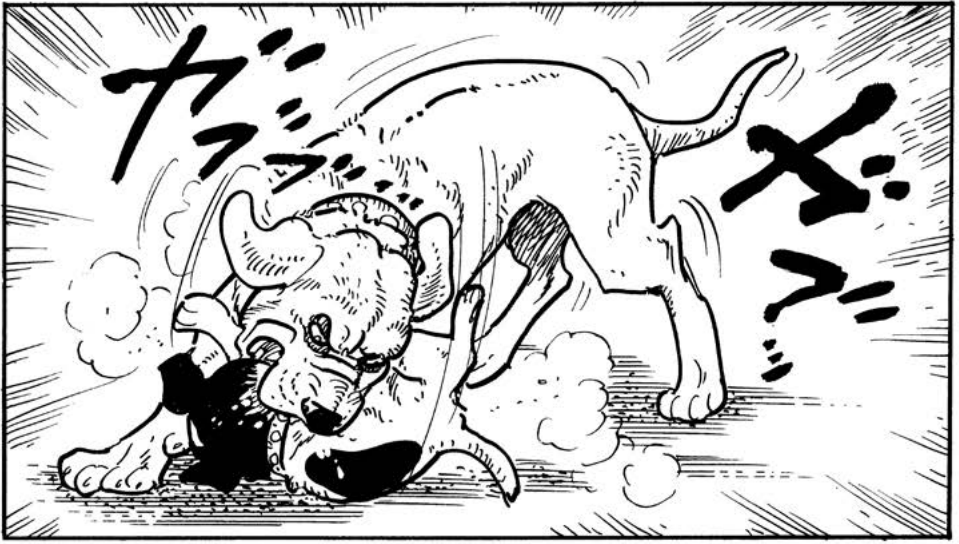
待っている
ものがいると
いうだけで
心が弾む

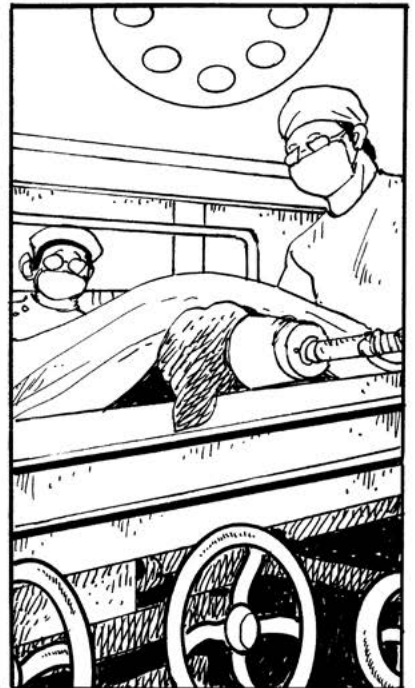
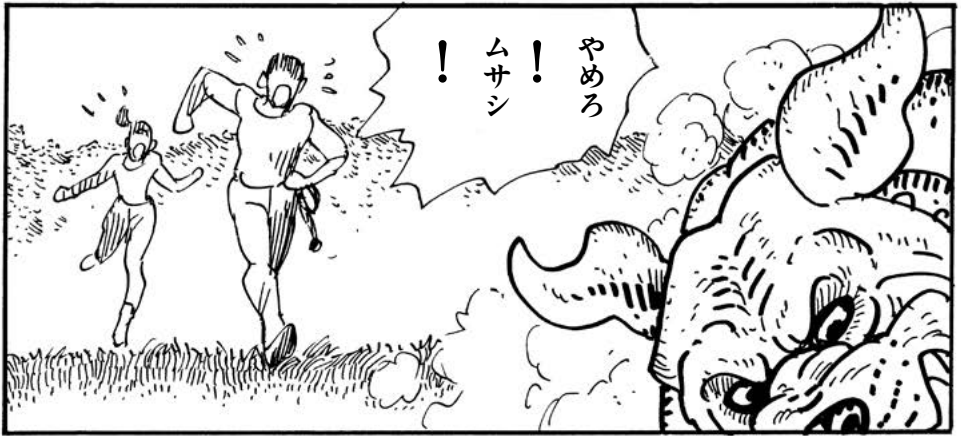


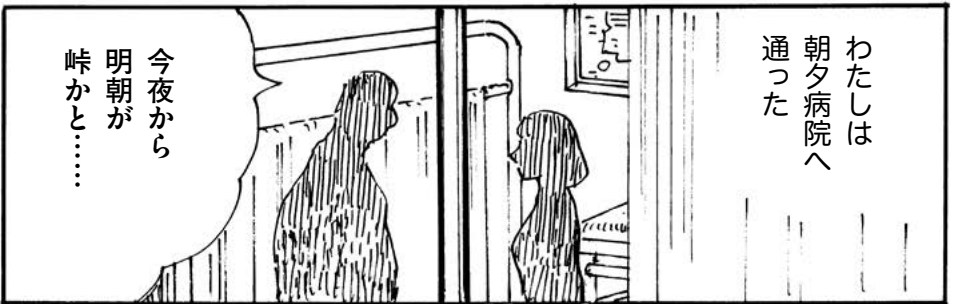
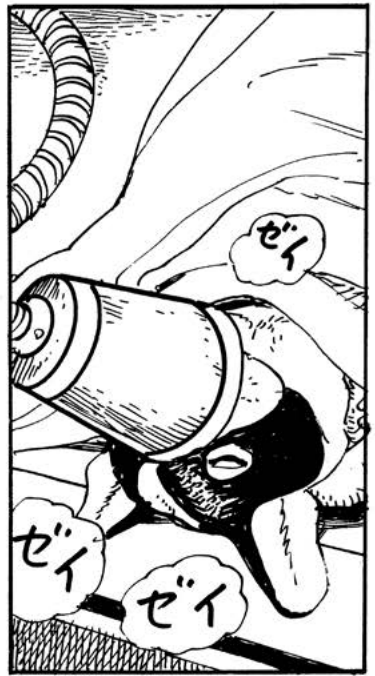
そして
休日はい

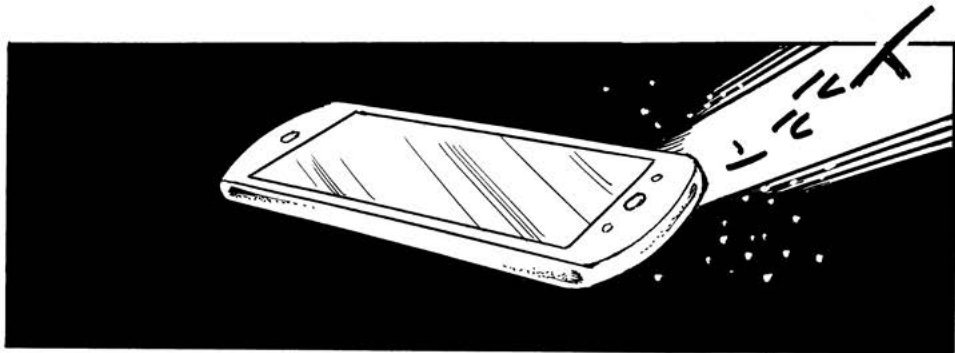












助
か
っ
た
!

KOTOの
命が……



ぎ
く
っ



え
っ
コ
ト
が
!?

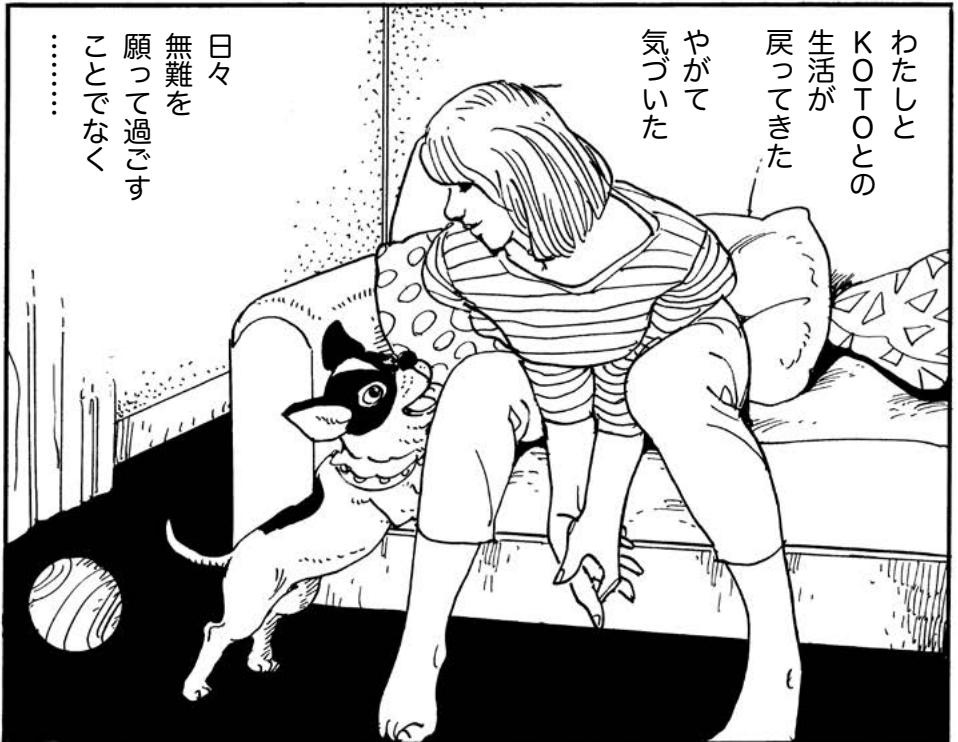




わたしの
身体の
中に
まだ
こんなに
涙があつた
なんて！



ほうだ
滂沱と
あふれる
涙……



わたしと
KOTOとの
生活が
戻ってきた
やがて
気づいた

日々
無難を
願って過ごす
ことではなく
……

喜怒哀楽を
けん命に
生きる中に
充実感も
あり

真実
生きている
ところなんだ
あると——

「苦難なき
ものは幸運に
値せず——」

レオナルド・ダ
ヴィンチ

